

南スーダン

難民・避難民キャンプの女性の暮らしを支え、
子どもたちには教育の機会を

2011年に独立した新しい国、南スーダン。大統領派と副大統領派の対立が生じ、2016年7月、首都ジュバでの市街戦を皮切りに内戦が再燃しました。2018年9月、周辺国の仲介によって、敵対する両派に加えその他多数の反政府勢力が和平に合意。戦闘行為は沈静化しましたが、合意していない武装勢力もあり、一部での衝突や小規模な襲撃事件等は続いています。また、住民が避難した地域を軍や民兵集団が占拠・駐留しているケースも多く、難民や避難民の故郷への帰還は進んでいません。



保護者がいない子どもたちの課外活動。ドロップアウトしないように、見守りが大切

避難生活を送る母親と子どもたちを支える(首都ジュバ郊外)

ジュバ郊外のマンガテン国内避難民キャンプに避難する600世帯の大半は女性と子どもです。避難民女性が現金収入を得ることは大変難しく、国連等からの支援も十分ではなく、厳しい生活が続いています。

食料、生活用品などの緊急支援

女性の生計向上のための菜園づくり支援として、鍬や手押し車などの農具と、オクラやモロヘイヤ、ナス、落花生などの種子を配布しました。野菜の収穫が家庭での栄養改善につながり、収穫した落花生を市場で販売することで現金収入を得ることができました。

また女性グループと話し合い、小屋を建てて製粉機を設置しました。女性たちは製粉機でピーナッツペーストやオクラの粉末を作り、市場で販売して収入を得ています。利用者からは燃料代などの維持経費として少額の利用料を集めており、女性たちだけで製粉機を持続的に運用することを目指しています。

子どもの就学支援

キャンプでの家計の大半は食料に費やされ、子どもの教育にまわす余裕がない状況です。また物価高で学費が上がり、生徒数が激減しています。そこで学校に通っていない子どもについて調査し、約90人に学費を支援しました。またノートや鉛筆など300人分の学用品も配りました。



製粉機を使用して作ったピーナッツペーストなどはマーケットで売られる

難民キャンプにおける子ども支援(ユニティ州イーダ難民キャンプ)

スーダン南コルドファン州の紛争により、国境を越え南スーダンに逃れた人々が暮らすイーダ難民キャンプ。人々が教育を受ける機会を奪われないよう、JVCは2013年から難民が自主運営する幼稚園への支援を続けています。また死別や生き別れで親を失った子どもの就学支援も行っています。

幼稚園への支援

20か所の幼稚園へ備品を設置し、ボランティア教員80名へ手当を支給、うち50名に児童心理などの知識や実習を含む研修を行いました。研修を受けた教員たちは体操、アルファベット、数字の読み書きなどの時間割を作ってクラスを運営し、子どもたちが楽しく過ごせる工夫がなされるようになりました。



幼稚園では数字やアルファベットも学ぶ

保護者がいない児童の就学支援

児童30名に学用品、学費、衣服及び給食を支援しました。また課外活動や専任スタッフによる見守り、精神的ケアにより、学校への定着や学習意欲向上に繋がっています。



課外活動では絵画のクラスなど情操教育も行われる